研究発表

学校名　神奈川県立永谷高等学校 PTA

研究テーマ「４０年のきせき（軌跡から奇跡へ）」

１．はじめに

本校は、1986 年（昭和 61 年）に開校し、今年創立 39 年を迎えます。県立高校改革により令和９年度に横浜桜陽高校と統合し、完校することになります。

これに伴い生徒たちが残した功績、数々の思い出を形に残したいという想いで、今回の発表とさせていただきます。

２．学校紹介

永谷高校は、緑豊かで閑静な住宅に囲まれた小高い丘の上にあります。校舎から見える景色は、とても綺麗で晴れた日には秩父連山から丹沢、大山、箱根、伊豆まで見渡せ、富士山が雄大な姿を見せる大変学習環境のよい場所です。

敷地内には、およそ 2000 年前から人々が生活していたといわれる弥生時代の遺跡もあります。

３．40 年の歩み

①校舎竣工

神奈川県の高校新設百校計画の一環として設立された本校は、当時の多くの新設校と同様に県立商工高校の跡地で開校して１年を過ごした後、現在の地（横浜市港南区下永谷）に新校舎が完成し移転してきました。

校舎の外観はアイボリーに茶のアクセントのきいた色彩で、全体に丸みを帯びた柔らかいデザインになっています。

<校舎全正面玄関>

②校歌制定

昭和 63 年、校歌制定準備委員会が設けられ、当時の校長等準備委員が作詩家関根榮一氏の自宅を訪ねて作詩を依頼するとともに、作曲家湯山昭氏を紹介していただき、湯山氏に作曲を依頼しました。

それを受けて昭和 63 年５月に制定されたのが現在の校歌です。歌詞には、冨士、楠、かもめ、弥生などのフレーズが散りばめられています。

③部活動の隆盛

開校当初から部活動は盛んで、サッカー部 34 人

を筆頭に、野球、ハンドボール、陸上競技、テニス、アーチェリーその他多数の運動部と文化部が合わせて24部ありました。

部員数が多い部活動は、実績も残しており、アーチェリー部の国体優勝をはじめとした活躍が見られました。

近年は、部活離れが進み部活動への参加者が少なくなっていますが、レスリング部の関東大会出場、ヨット部のインターハイ出場等個人戦で活躍している生徒もいます。

④PTA活動

開校と同時に作られたPTAは、設立時すでに本部のほか、環境整備、学年、広報、成人の各委員会が設置されており、その後交通安全委員会が加わりました。

学校の歴史とともに、近隣の清掃や、お祭り、警察との街頭キャンペーン、ひばりが丘学園のボランティアなど、地域とのつながりを大切にし、活動を広げてきました。

各委員会の活動内容は、

・環境整備委員会は、花壇の花植えや校内のペンキ塗り、校内外の清掃。

・学年委員会は、進路説明会や、大学・短大見学バスツアーの開催。

・広報委員会は、年２～３回の広報誌発行。

・成人委員会は、保護者を対象とした鎌倉見学や講演・講習等のバス社会見学などの企画、運営。

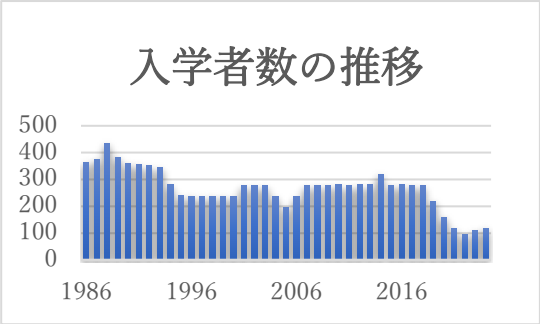
・交通安全委員会は、自転車安全教室の開催、セーフティカードの配布。

⑤学校行事

文化祭、体育祭、修学旅行等の学校行事は、創立１年目から行われており、第一回の修学旅行は、スキー教室でした。その後、修学旅行の内容は時代とともに見直され、近年は沖縄、北海道、大阪等へ。内容も全員一斉のものから生徒自身の計画によるものへ。体育祭は現在生徒主体の「Nスポ」と形を変えて運営されています。

⑥少子化と生徒数の減少

生徒数の推移をグラフにしました。



少子化や学区撤廃等の影響により、生徒数が減少しました。それでも様々な逆境を乗り越えて生徒たちは今日も前進を続けています。

また、自分たちの学校が地域の一員として貢献し、地域に愛される学校となるよう地域の清掃活動などを行っています。

生徒たちの残した数々の功績、逆境を乗り越えながら前を向く姿を私たちは誇りに思い、皆さんにお伝えします。

４．これからのPTA活動

①活動のスリム化

PTA 活動のスリム化は、小中高のどの学校でも行っています。特にコロナ禍をきっかけに加速していったことと思われます。加えて本校は、完校が重なり、更なる保護者数の減少ということで、役員の負担を減らし、最後の担い手へと繋げていきます。

②ペーパーレス化

スリム化を進める上で、役員、委員の負担を減らすために、そしてSDGsも視野に入れて、PTA総会資料と広報誌のメール便での送付をやめ、電子化を進めています。PTA からの発信は、マチコミを使い、PDFやGoogleフォームなどを利用して保護者へ展開していきます。また、電子化を進めるにあたり、学校の協力がなくては実現が難しいため、学校との更なる連携を図っています。

③ミスプリント紙の活用

今年度 SDGs の一環として印刷資料作成時に発生したミスプリント紙を原料に紙漉きを行い、しおりを作成する取組みを行いました。秋に行われる文化祭では、しおり作り体験を発表する予定です。

５．まとめ

横浜南地区協議会大会での発表という貴重な機会をいただき、ありがとうございます。永谷高校の40年の軌跡を振り返ってみて、先生方や生徒、保護者の想いに多く触れることができました。

１学年から３学年まで３つの学年が揃うのは令和６年度のこの１年間だけとなってしまいました。希望から始まった永谷高校も、様々な事情により、幕を閉じようとしていますが、いつの時代もその子にとっての思い出は大切なものです。良い思い出も、悪い思い出も全てがその子にとっての思い出なのです。その思い出を誰とどう作り上げていくか、今一度同じ場所で出会えた奇跡を大切に、この学校の全ての軌跡を胸に、三年間自分たちの軌跡を胸に、永谷高校を立派に卒業して、たくさんの奇跡を起こせる人に成長していって欲しいと願っています。

６．助言者の講評

ご紹介いただきました、横浜栄高校校長の相川と申します。まずは永谷高等学校ＰＴＡの皆様、事前の準備から今日の発表までお疲れ様でした。今日のタイトル「４０年のきせき（軌跡から奇跡へ）」私にも十分刺さってきました。

一昨年ぐらいに完校が決まった永谷高校さんにこのＰＴＡの大会での発表をお願いするところで私の中ではすこし躊躇感がありましたが、結果的に今日、発表していただいて、本当に良かったし、本当にありがたかったなと思います。

私も、今から５年ぐらい前に１つの学校を完校してきました。大楠高校というところで、４０年目で完校し、横須賀南高校に引き継いできましたけど、その時４０年間の学校の思いをどうやってまとめようかな？と最後の年になって考え取り組まなければならず、最後の校長として２年間、本当に忙しく、なかなか余裕がなかったことを記憶しています。

今までの４０年間の卒業生たちの思い、そして今育てている在校生の生徒さんの思い、それをどのように表現しようかと考え、資料を紐解き、まとめ、そしてそのタイトルが「４０年間のきせき（軌跡から奇跡へ）」。いろいろな意味合いで今までの永谷高校のＰＴＡの皆さんの活動がよくわかり、素晴らしい発表だったと思います。中でもＳＤＧｓに取り組もうとして、素晴らしい活動をしていただいている。そこまでの目線での取り組みをすることはなかなか難しいと思いながらも、我々の今後の参考にさせていただきました。

そして、ぜひこのまとめた４０年の思いを、２年後完校になる時、何かしらの記念をおつくりになる際に、この発表を次の方たちにそのまま引き継いで、何かに入れていくと良いのではないかと思いました。それだけのクオリティだったと思います。

また、たまたまご縁があり、９年前か１０年前にこの南地区協議会大会のＰＴＡ研究発表で、永谷高校さんの発表を見た記憶があります。この会場だったか覚えていませんが、その時の発表で、校長先生とＰＴＡの皆さんが地域に出かけ、ごみを拾ったり、生徒の皆さんを励ましたりする活動に取り組み、永谷高校を盛り立てていこうとする気持ちをすごく感じた発表でした。それを思い出しながら、９年１０年経った今でも、その気持ちが、現在の皆さんの活動や今回の発表に繋がっていると感じました。

この後、残り２年ではありますが、あくまでも完校であって、統合でもあります。次の新しい学校で、永谷高校の卒業生の方たちが繋がっていくわけで、今回の発表の内容がさらにそこに生かされていけばいいかと思いました。

あらためて「４０年のきせき（軌跡から奇跡へ）」私はその軌跡という言葉の中で永谷高等学校の輝跡、輝いた跡、それをすごく感じる発表をしていただいたと思います。ご準備から発表まで本当に色々ご苦労が多かったことと思います。本当にお願いして良かったと思う研究発表でした。

ありがとうございました。